

Title	為替リスクを組み入れた多通過ポートフォリオの最適運用
Sub Title	
Author	石渡英五(Ishiwata, Eigo) 村井俊雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第394号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0394

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

石 渡 英 五

(モービル石油株式会社)

所属ゼミナール

村 井 俊 雄 研

主査 村 井 俊 雄

副査 太 田 康 信

青 井 倫 一

為替リスクを組み入れた多通貨ポートフォリオの最適運用

本論は企業を取りまく環境の変化の中でも、とりわけ近年自由化・国際化の進展の著しい金融市場に呼応して、企業の選択すべき財務戦略の柱でもある資金の運用面から研究したものである。具体的には、今日の資金運用の特徴的な傾向である外貨使用率のブーム的急増に対して、理論的かつ実用的な手法を開発するよう試みた。モデルとして取りあげたのは、多通貨ポートフォリオの最適運用方法である。外貨での投資には、言うまでもなく為替リスクが常に存在する。この為替リスクと証券からの収益のリスクを個別のリスクとする従来からの理論に対し、本論ではこの両リスクを全体のポートフォリオ構成要素として考え、他の資産との関係において変動リスクをヘッジする方法を採用した。この基本アイデアを、ポートフォリオ理論のフレーム・ワークの中で検証するため、時系列データを元にシミュレーションを行なった。時系列データとしては、欧米5カ国の長期債権からインデックスを作成し、その収益率と直物、先物の為替データを組み合わせている。シミュレーションからの結果としては、直物だけの組み合わせでは、良好なパフォーマンスは得らず、最良の結果は100%先物為替予約を行ないながらポートフォリオを選択する方法であった。しかし直物と先物を組み合わせた混合型も、小差で100%為替予約をするフルヘッジに次いでおり、適切なヘッジ・レシオの選択には極めて有効であることが検証できた。今後このモデルをより改良、発展させる余地は残っており、それによって従来より容易に海外投資のリスクを軽減することが可能と思われる、そのプロト・タイプとしての役割は果たしている。